

歴史と文化の学習拠点整備基本構想

平成 23 年 3 月

雫 石 町

はじめに

本町には、名勝「イーハトーブの風景地 七つ森・狼森」、天然記念物「葛根田の大岩屋」の国指定文化財2件のほか、国登録有形文化財9件、県指定文化財2件、町指定文化財20件があり、また200か所を超える埋蔵文化財の包蔵地が確認されています。

これら指定の文化財に限らず、町内に残る有形無形の文化財や生活文化に基づく年中行事・民俗芸能などは、長い歴史の中で自然や風土、社会や生活を反映しながら伝承され発展してきたものであり、それぞれが先人の豊かな情感と精神活動の軌跡を示す町の「個性」を表しています。

急速に進む少子高齢化をはじめ国際化や情報化の進展など、社会構造の急激な変化に伴って、それらが失われ、忘れられる恐れが高まっている状況は、本町においても例外ではありません。町の「個性」を守り伝えていくことは、将来の世代のため現代に生きる町民に課せられた大事な使命の一つであり、近年特に重要な課題となっておりますが、そのためには町の歴史や文化を学習し正しく理解することが必要です。

町の歴史や文化を学習することは、自分たちの郷土を見直すことに他なりません。

このたび、そのための学習拠点のあるべき姿について、町の歴史や文化の特徴を把握し、これまで拠点の機能を担ってきた歴史民俗資料館の課題を整理した上で、今後整備を進めるにあたって何が必要となるのか考え、基本構想としてその目的・性格・機能をまとめることといたしました。

目 次

はじめに

1. 基本構想に至る経緯	1
2. 町の歴史・文化の概要と特色	2
3. 学習拠点の基本理念	5

おわりに

<参考資料>

- 1) 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム
- 2) プロジェクト経過
- 3) プロジェクトチーム会議要録
- 4) グループワーク成果要録

1. 基本構想策定に至る経緯

雫石町歴史民俗資料館（以下「資料館」と表記します。）は、昭和 49 年の開館以来、町の歴史や文化を学習するための拠点を担ってきました。

当初、御所ダム建設に伴い散逸の恐れがあった民俗資料（民具類）を中心に収集、保管、展示をするための施設として始まった資料館でしたが、開館後は、発掘調査により出土した土器・石器類、町民から寄託・寄贈された資料の増加によって、資料の収蔵量が施設規模に対し超過するようになっていきました。同時に、資料の入れ替えも困難となり、資料館の魅力を高めるための展示の工夫も難しく、近年、恒常的な課題となっていました。

このような背景から、町では、平成 18 年 3 月に策定した雫石町総合計画後期基本計画において、次のような施策の方向を打ち出しています。

・資料館については、収蔵量超過を解消し、町の歴史や文化を学ぶ拠点としての機能を高めるとともに、曲り屋については、昔の生活体験学習の場とするなど、有効利用に努めます。

また、超過して収蔵されている民俗資料や町の有する文化財、歴史資料の保存と有効活用について、歴史学習拠点施設と併せて検討していきます。

この方向に合わせ、平成 18 年度から、新たに資料の収蔵庫として旧剣道場の使用を始めました。これにより、資料館本館及び南部曲り屋における収蔵量の超過状態をほぼ解消することはできましたが、旧剣道場も建設後 40 年以上を経過し、建物の老朽化が進んでいることから、これはあくまで一時的なものであり、恒久的な課題解決には至っていないのが現状です。

また、平成 18 年度には資料館本館の床改修工事に合わせ展示資料と内容を一新し、平成 21 年度には、南部曲り屋・水車小屋・物置小屋（旧便所棟）の茅葺屋根の全面葺き替えや、水車小屋に至る連絡通路の整備を行いました。これにより、以前と比較して、資料館の常設展示から歴史や文化を学習できる効果は高まりましたが、近年その重要性が指摘されている参加体験による学習体制の整備には必ずしも繋がっていない状況が続いています。

これらの状況から、町の歴史や文化を学習するための拠点を担う資料館の機能は、子どもから大人まで誰もが学習できるという部分においてはまだ不十分であり、これらに関する機能を高めるため、まずはその土台ともなる基本構想の策定に取り組むこととしたものです。

2. 町の歴史・文化の概要と特色

雫石町は、ほとんどが雫石盆地に含まれるという地理的な特徴から、古来比較的一体となってその歴史を歩んできました。その概要と特色は、大きく時代ごとに次のとおりです。

1) 先史以前

太古、雫石地方は海であり、湖でした。その名残として町内の各地には当時の地層を観察できる場所があり、海だった時代の地層（国見層ほか）からは魚や貝の化石が、湖だった時代の地層（^{ますざわ}舁沢層）からは木の葉の化石が発見されています。

2) 先史時代～古代

雫石地方と人のかかわりは旧石器時代に始まり、板橋Ⅲ遺跡（板橋）からは、約 3 万 2 千年前のものと見られる石器が発見されています。

縄文時代には多くの人々が暮らすようになりました。町内で確認されている 210 か所の遺跡のうち、およそ 8 割はこの時代の遺跡です。早期（約 1 万年前～）以降、町内の各地に生活の場が広がっていきませんが、とりわけ、^{しおがもりいち}塩ヶ森Ⅰ遺跡（^{なご}繋 5 地割・旧字塩ヶ森）や^{こびやちいちびー}小日谷地ⅠB 遺跡（小日谷地）など、雫石川の流域には大きな集落がつくられ、発掘調査でさまざまなものが見つかっています。また、桜沼遺跡（^{なご}名子）は、『岩手郡史』でも「本郡稀に見る先史時代遺跡」と称されたほどの大きな遺跡で、^{しゃこうきどぐう}遮光器土偶が特徴的です。

対して、弥生・古墳時代の遺跡は非常に少なくなり、当時の暮らしはよく分かっていませんが、弥生時代の住居のようなものが見つかった^{でんく}伝久遺跡（西安庭第 31 地割・旧字伝久）や、古墳時代のお墓が見つかった^{にさわせ}仁沢瀬Ⅳ遺跡（仁佐瀬）など、町内外から広く注目を集めている遺跡があります。

奈良・平安時代、盛岡市では^{しわじょう}志波城をはじめ数多くの遺跡が見つかっていますが、その反面、町内の遺跡は多くありません。平安時代の竪穴住居跡が見つかったとされる^{まがきの}籬野遺跡（西安庭第 11 地割・旧字^{さいかち}臼角）の他は、^{にさわせ}仁沢瀬Ⅱ遺跡（仁佐瀬）が大きな集落跡と考えられていますが、調査の事例も少なく、詳しいことはあまりよく分かっていないのが現状です。

3) 中世

中世になり、ようやくこの地域が「しずくいし」と呼ばれるようになるようですが、当初は「滴石」と表記されていたことが知られています。

記録によれば、12 世紀末頃、後の新庄藩主となる戸沢氏初代の衡盛（ひらもり・一説にはひでもり）が移り住んだ場所が戸沢館（西安庭第 28 地割・旧字戸沢）であったと言われています。

南北朝時代には、戸沢（滴石）氏は南朝方に味方し、南部氏らとともに北朝方と争ったことが伝えられています。

戦国時代には、勢力を拡大してきた南部氏との抗争が激しくなり、天文 9（1540）年、戸沢氏（一説には手塚氏）の滴石城は南部氏の攻撃により落城しました。その後の混乱の中滴石に入った斯波氏は、「滴石」を「雫石」に改め自らも雫石氏を名乗り城を復興したものの、天正 14（1586 年）、南部信直の攻略によって城は再び落城したと言われています。この戦のさなか、雫石城につながる秘密の水路をめぐる、茶屋のおかみと南部氏の隠密のやりとりから生まれたという話が「よしゃれ」の伝承として後世に伝わり、座敷踊りとしての「雫石よしゃれ」に発展、さらには岩手を代表する民謡「南部よしゃれ」となったことは有名な話です。

4) 近世

江戸時代に入ると、雫石地方は盛岡藩の広域行政区域「雫石通」となります。後期には、雫石・繋・安庭・南畑・鶯宿・御明神・上野・橋場・西根・長山の 10 か村に区分され、現在の「大字」の基礎ができました。

雫石通の中心となる雫石村には、それまであった城に代わって代官所が設置されました。盛岡と角館・秋田を結ぶ街道は町内を横断し、「雫石街道」や「秋田往来」と呼ばれ、幕府の巡見使や馬買衆が国見峠を越えるため、特に整備が図られました。街道沿いには一里塚（生森・高前田など）も築かれ、藩境に近い橋場には御番所が置かれました。

街道は、戊辰戦争の際には官軍の通り道となり、橋場では実際に戦いが繰り広げられました。

江戸時代には、多くの生活文化が生まれ、雫石に根付いていきました。農家の住居様式である南部曲り屋をはじめ、農業（水田・畑作）・林業（山林の維持管理・筏流し）・狩猟・水産業（漁労）に関わる各種の生活様式や使用する道具類など、その多くは戦後の高度経済成長期前まで伝わりました。年中行事や、神楽や田植踊・念仏剣舞など町内に伝わる民俗芸能の多くも、その発祥を江戸時代に求めることができます。

5) 近代～現代

明治 22 年、市町村制の施行によって、先の 10 か村は雫石・御所・御明神・西山の 4 つの村になり、昭和 15 年には雫石村が町制を敷きました。

明治時代中には、現在は日本最大の民間総合農場となっている小岩井農場の開場、七ツ森の払い下げや志戸前山しとまえの下げ戻しなどの大きな出来事がありました。

近代に至っても、雫石には独特の文化が築かれ続けましたが、その最たるものは、雫石あねっこの衣装に代表される、各種の織り・染めの技術といえます。地域独自の織物として伝承されてきたとされる「亀甲織きっこうおり」をはじめ、昭和 12 年開催のパリ万博で銅賞に輝いたテーブルセンター（マダ皮と絹糸で編んだ敷物）の他、マダケラ（シナノキの皮で編んだ蓑みの）など、芸術作品とも言うべき工芸品も数多く生み出されました。

また、雫石は、宮沢賢治と深いつながりがあることが知られています。彼の作品の多くに雫石の地名が登場することが知られていますが、中でも「七ツ森」と「狼森おいのもり」（丸谷地・小岩井農場内）は、平成 17 年に「イーハトーブの風景地」として国の名勝に指定されています。

昭和30年4月に1町3村が合併し雫石町となった後、御所ダムの建設がはじまり、それまで雫石川沿いに暮らしていた住民は移転することとなりましたが、その際に収集した民俗資料（民具類）が歴史民俗資料館に収められています。

平成 17 年には合併 50 周年を迎え、現在に至っています。

3. 学習拠点の基本理念

以上の経緯と町の歴史・文化の特色を踏まえ、誰もが町の歴史や文化を学習できる学習拠点を整備する際の基本理念として、求められる拠点の目的と性格・機能を次のとおり設定します。

1) 目的

拠点整備の目的について、雫石町総合計画との整合を図り、ひとづくりの視点から次のとおり設定します。

雫石に対する理解を深め、愛をもち、主体的に新たな郷土を創造する人材の育成

2) 性格及び機能

拠点に備えるべき性格及び機能について、次のとおりとします。併せて、その機能を満たすために今後何が必要かを整理します。

性格① 町の歴史・文化に関する概要を知る空間

- ・町の歴史や文化の概要を知ることができる拠点を目指します。

機能：常設展示から概要を学習できる拠点

- ・体系別に整理した基礎資料を、常設の方法によってできるだけ変化のない形で展示することが必要です。

性格② 新たな発見や創造に繋がる学習ができる空間

- ・町の歴史や文化の概要にとどまらず、より深い内容についても知ることができる拠点を目指します。

機能1：企画展示から新たな発見に繋がる学習ができる拠点

- ・特定分野に的を絞った企画展を行うなど、資料の入れ替えを随時行い、目的意識を持った展示を継続して行っていくことが必要です。

機能2：体験講座や講演会等、参加型の学習ができる拠点

- ・体験学習会や講演会など来館者のニーズに合わせた体験型のイベントを、変化のある形態で開催することが必要です。

性格③ 気軽に立ち寄り、目的に応じた学習をする空間

(1) 町の歴史や文化に対する興味・関心を高めるために学習しやすい環境が整い、誰もが「行きたくなる」拠点を目指します。

機能：年齢等の条件にかかわらず、誰もが利用できる拠点

・ユニバーサルデザインの観点から、できるだけ多くの人が利用できるようハード・ソフト両面の整備を行っていくことが必要です。

(2) 展示資料以外からも、町の歴史や文化を学習できるような情報を得ることができる拠点を目指します。

機能：あらゆるメディアによる学習ができる拠点

・映像や文献などの資料も整備するとともに、検索や閲覧ができるような環境を整えることが必要です。

性格④ 情報の積極的な発信がなされる空間

・町の歴史や文化をさらに掘り起こし、魅力として伝えることのできる拠点を目指します。

機能1：調査研究が行われる拠点

・専門分野に関する調査研究を行うための環境を整えることが必要です。

機能2：町内外に情報を発信し、関心を高められる拠点

・拠点のようすが町外からも広く認知されるよう、観光客等も含め広く情報を提供し、発信し続けることが必要です。

性格⑤ 多くの人々とのかかわりが持てる空間

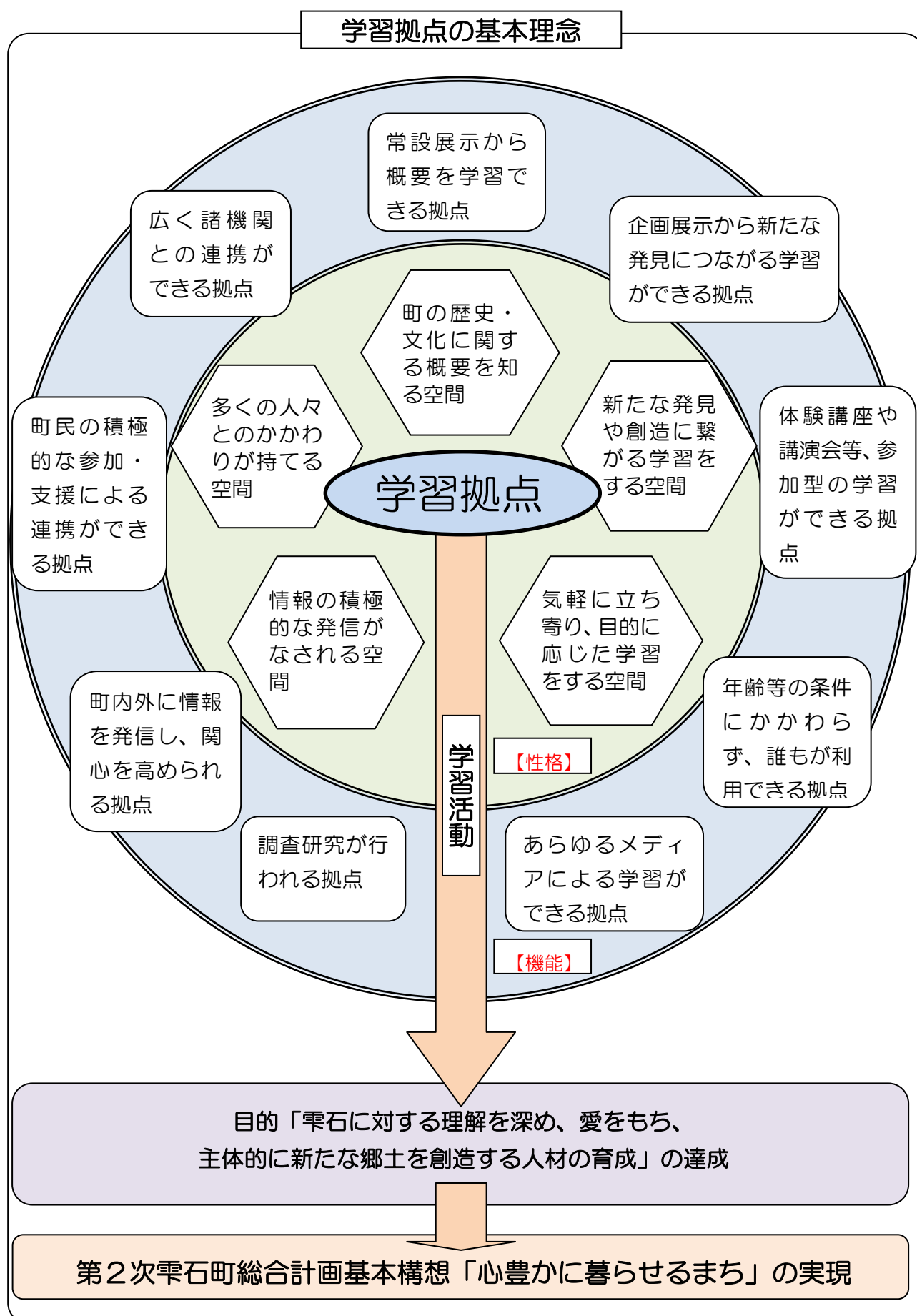
多くの人が何度も足を運ぶだけでなく、そこでの出会いをきっかけに、さらに多くのネットワークが広がるような拠点を目指します。

機能1：町民の積極的な参加・支援による連携ができる拠点

・ボランティア、学習グループ、サークル等学習活動の拠点としても利用され、町民に近い存在として支持され運営できる体制を構築することが必要です。

機能2：広く諸機関との連携ができる拠点

・同種の施設に限らず、近隣にある異分野の施設も含め、広く諸機関とも連携ができるような体制を構築することが必要です。



おわりに

第2次雫石町総合計画基本構想（平成23年度～）に掲げる「心豊かに暮らせるまち」づくりに向け、今後はこの基本構想をもととして、学習拠点の整備が進むことを希望します。拠点の整備にあたっては、町の文化財行政の状況、特に資料館の現状と課題をしっかりと把握し、基本理念に沿った拠点ができるよう、しかるべき時期に基本計画等を策定していくことが望まれます。

＜参考資料＞

1) 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム

メンバー

No.	所属	職	氏名	備考（グループ・役職）
1	経営推進課	主事	岡本 信	政策調整
2	福祉課	主査	下川原 正之	高齢者福祉（リーダー）
3	産業振興課	主事	中田 美沙	産業間連携
4	産業振興課	主事	高橋 俊則	商工労政
5	産業振興課	主任	中村 晴光	観光推進
6	地域整備課	主任	高橋 恵	地域計画
7	学校教育課	主査	田辺 茂	学校教育（サブリーダー）
8	社会教育課	主事	鷹觜 あゆみ	文化財
9	生涯文化課	主事	熊谷 直人	生涯学習

事務局

No.	所属	職	氏名	備考
1	社会教育課	課長	小田 純治	全体総括
2		主査	畠山 康	庶務総括
3		主任	柴田 慈幸	庶務主担当
4		主事	鷹觜 あゆみ	庶務副担当（メンバー兼任）
5		専門指導員	渡辺 洋一	現施設担当
6		専門指導員	小田 晴世	現施設担当

アドバイザー（敬称略）

No.	所属	職	氏名	備考（グループ・役職）
1	盛岡大学文学部	教授	熊谷 常正	基本構想策定まで必要に応じ指導助言をいただく。

2) プロジェクト経過

No.	月日	表題	内容
1	22.5.17	プロジェクトチーム立ち上げ	・ 庁内関係課及び担当者等によるチームを組織 ・ 有識者をアドバイザーとして委嘱（熊谷常正氏）
2	22.5.25	第1回プロジェクトチーム会議	・ チーム結成に至る経緯の説明 ・ 事業概要の説明 ・ アドバイザーによる講演 ・ 施設の見学（資料館等）
3	22.8.10	第2回プロジェクトチーム会議	・ 町における歴史学習の概況説明 ・ 基本構想の枠組みを考えるためのグループワーク
4	23.2.7	第3回プロジェクトチーム会議	・ 基本構想の骨子案の検討
5	23.3.3	第4回プロジェクトチーム会議	・ 基本構想原案の読み合わせと検討
6	23.3.23	アドバイザー協議	・ 当初予定していた第5回会議の中止を受け、基本構想の案についてアドバイザーから指導助言を受ける
7	23.3.30	構想策定及び町長報告	・ プロジェクトの経緯を含め、基本構想の内容に関し報告と説明を行った

3) プロジェクトチーム会議要録

・第1回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議

平成22年5月25日（火）午前10時～12時／庁舎3階大会議室・歴史民俗資料館等

＜次 第＞ 開会・閉会及び協議以外の進行…畠山主査

1. 開 会

2. 挨拶（小田課長から）

3. チームメンバー・アドバイザー紹介 … 資料により紹介（柴田主任）

4. 報 告

… 資料によりチーム結成に至る経緯とプロジェクトの概要を説明（柴田主任）

＜主な説明点＞

- ①歴史・文化の学習拠点に望まれる4つのことについて
- ②拠点整備の目的について
- ③庁内プロジェクトチーム制度活用理由について
- ④関係部署及びグループについて

5. 協 議（進行：下川原リーダー）

1) 基本構想策定に向けたスケジュールについて

… 資料によりスケジュールについて説明、了承（柴田主任）

＜主な説明及び協議点＞

- ①22年度の事業概要（基本構想策定）について
- ②23年度以降の事業概要（基本計画・実施計画等の策定）について
- ③プロジェクトチーム会議のスケジュール（年6回を計画）について

2) その他 … 参考となる類例に関する資料を配布

（徳島県立博物館・富山市博物館・京都市歴史博物館・萩市新博物館）

6. 講 演「博物館施設を巡る概況」（アドバイザー：熊谷 常正氏から）

… パワーポイント及び原稿により、博物館に関する基礎知識の教授を受けた

＜主な内容＞

- ①博物館法に基づく博物館の分類と定義、登録について
- ②従来の博物館活動の体系について
- ③社会教育施設と博物館の入館者数の推移について
- ④これからの公立博物館のあり方と活動について

7. 施設視察 … 雫石町歴史民俗資料館と旧剣道場の現状を視察・確認

8. 閉 会

第2回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議

平成22年8月10日(火) 午後2時～4時/庁舎3階 大会議室

公開により開催：会議傍聴(参加)者 2名

＜次第＞ 開会・閉会及び協議以外の進行…畠山主査

1. 開 会

2. 挨拶(小田課長から)

3. 報 告

1) 近年の博物館をめぐる概況 … 資料により前回講演の趣旨を紹介(柴田主任)

2) 雫石町歴史民俗資料館と雫石町における歴史学習の概況

… 資料によりそれぞれの概況を説明(柴田主任)

＜主な説明点＞

- ①歴史民俗資料館の沿革、付属施設、主な収蔵資料について
- ②望まれる拠点から見た資料館の現状比較について
- ③教育委員会が関わる学習資料の現状について

4. 協 議 ～雫石町にとって必要な学習拠点の機能とは？(グループワーク)

… 次の2つをテーマとして、2グループに分けそれぞれ話し合いを実施

なお、グループ1は主として内(町内・町民)に向け、グループ2は主として外(町外・来訪者)に向けることに留意し作成

テーマ① 学習拠点に何を置きたいか？ ……望まれる学習資料

テーマ② どんな学習拠点にしたいか？ ……望まれる機能

作成後、それぞれのグループから発表(要録は別添)

*アドバイザーは、地域の特性をテーマとして「酒屋」から切り込んで話し合いを実施

5. 講 評 ～アドバイザーから

＜主な内容＞

- ①現在は体験的展示が主流。活用＝世代間をつなぐ役割を担う。
- ②年代ごとの地図やローカルな話題(苗字・屋号・地名)はいいアイデア。
- ③オリジナルグッズは欧米では当たり前。入館無料でも利潤を得る仕組み。
- ④展示替えをできることが重要。動きのある展示室へ。

6. その他

一般傍聴(参加)者2名から感想を伺う。併せて今後について事務連絡。

7. 閉 会

第3回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議

平成23年2月7日（月） 午後2時～4時／庁舎2階 201号会議室

＜次第＞ 開会・閉会及び協議以外の進行…畠山主査

1. 開 会

2. 挨拶（小田課長から）

3. 経過報告 … 資料により前回会議以降の流れについて説明（柴田主任）

4. 協 議 ～基本構想の内容の検討

1) 基本構想の骨子及び内容について … 資料により説明（柴田主任）

＜主な説明・協議点＞

- ①見直しにより設定した基本構想の骨子について
- ②骨子に基づき作成した構想原案について



＜協議の結果について＞

基本構想骨子については、当初原案から変更することです承
併せて、構想原案も見直しをすることです承

＊主な内容

- ①基本計画等の策定までの時間差を想定し、章立てを簡潔に
- ②章立ては、策定に至る経緯・町の歴史文化の特色・基本理念に
- ③会議後に原案を修正し、あらかじめ会議前に委員に提示し意見を得る

2) その他

5. その他 … 今後の予定について事務連絡

6. 閉 会

第4回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議

平成 23 年 3 月 3 日（木） 午後 2 時～4 時／庁舎 2 階 201 号会議室

公開により開催：会議傍聴（参加）者 1 名

＜次 第＞ 開会・閉会及び協議以外の進行…畠山主査

1. 開 会

2. 挨拶（小田課長から）

3. 経過報告 … 資料により前回会議以降の流れについて説明（柴田主任）

4. 協 議 ～基本構想原案の読み合わせ

1) 基本構想の骨子及び内容について … 資料により説明（柴田主任）

＜主な説明・協議点＞

- ・原案の内容を提示し、詳細にわたる読み合わせを実施



＜協議の結果について＞

基本構想の原案を、メンバーの視点も含め大幅に修正・変更することができた

＊主な内容

- ①文章構成の修正・変更
- ②地名表記、ふりがな等の充実

2) その他

5. その他 … 今後の予定について事務連絡

6. 閉 会

第5回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議

平成 23 年 3 月 24 日（木） 午後 2 時～4 時／中央公民館視聴覚室

＊3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震の影響により、開催を中止した。

4) グループワーク成果要録

第2回 歴史と文化の学習拠点整備基本構想策定プロジェクトチーム会議で実施

平成22年8月10日(火) 午後2時～4時/庁舎3階 大会議室

テーマ① 学習拠点に何を置きたいか? ……望まれる学習資料

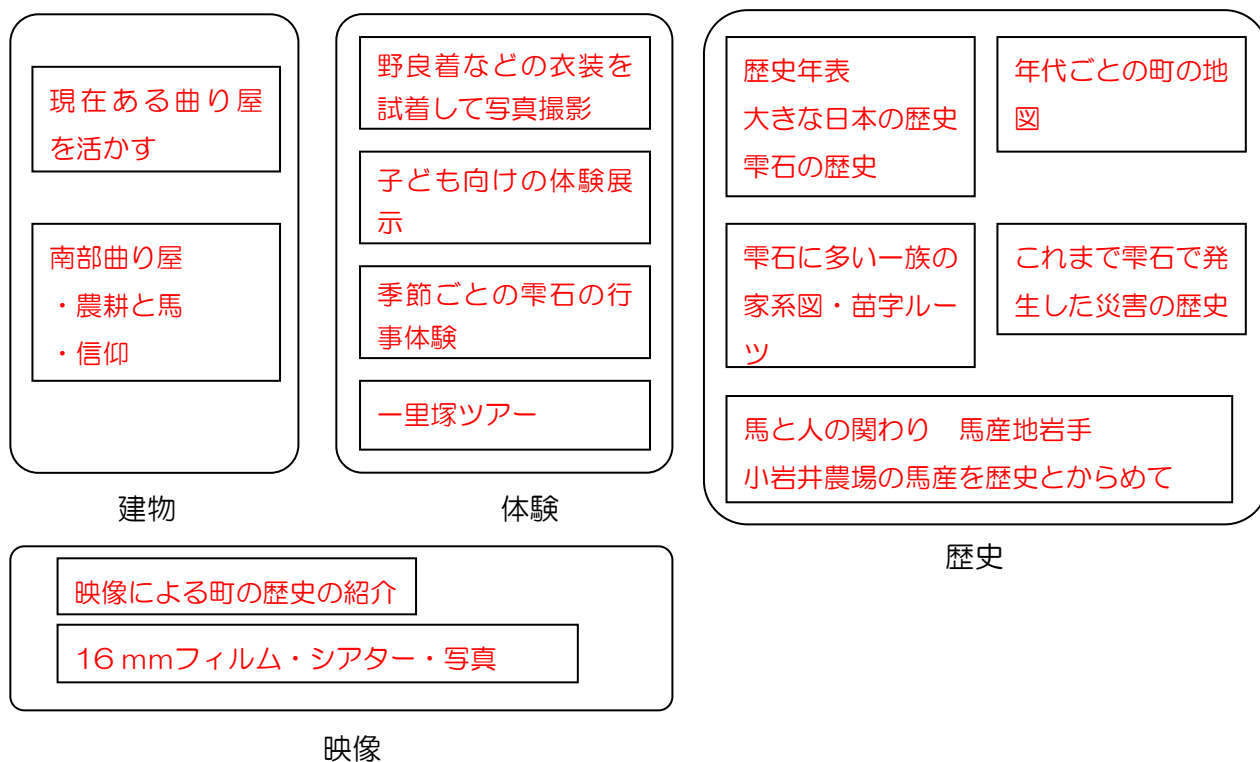
テーマ② どんな学習拠点にしたいか? ……望まれる機能

… 次の2つをテーマとして、2グループに分けそれぞれ話し合いを実施

*なお、グループ1は主として内(町内・町民)に向け、グループ2は主として外(町外・来訪者)に向けることに留意し作成した。

<グループ1>

①学習拠点に何を置きたいか



②どんな学習拠点にしたいか

- ◎ 町内4地区の文化の違い・比較 ～方言、行事、踊りなどの伝統芸能、郷土料理
- ◎ 誰が運営するか? 指定管理? 地域の人を入れるべき
 - 地域が利潤を得なければ! 郷土料理の販売&体験して作ってもらい料金もらう
 - 駅、しずく館との関わり・・・46号交通網の拠点?
- ◎ 公民館のもつ生涯学習機能と重複しない役割を! 地域活性とまちなか活性は異なるものとする。
- ◎ 生きがいづくりーただ集まるのではなくある知識を子ども・地域の人に伝え、教えてもらうー指導者としての役割と自覚を!

<グループ2>

①学習拠点に何を置きたいか

資料（土器等展示）	産直施設	雫石でしか食べられない料理を提供する食堂
体験・創作コーナー	誰でも利用できるトイレ	博物館でしか買えないモノ スタンプ、顔出しパネル？
軽食コーナー・飲食スペース・休憩コーナー		

形のあるもの

資料を閲覧 できるパソコン	展示できない 資料を写真や DVD等で	雫石十景 の写真	学習拠点施設の概要パンフレット
			外国語の表記（韓国語、英語）

形のないもの

補完するもの

②どんな学習拠点にしたいか

見学だけでなく、くつろげる場	効果のある展示（企画展示等）	
雫石町の歴史を時代の順に学習できるような展示	展示の変化・サイクルを創る	
連携した宿泊施設	新しくきれいな博物	プラネタリウム・星が見えるアピール
高齢・障がい者が利用しやすい施	学生が学習できるスペースがある	
多くの人達に利用してもらう施設	伝統芸能を学習・体験できるスペースがある	